

評価対象課題の研究内容と評価結果（概要）

研究課題	2	イヌワシの生息数維持に向けた保全生態学的研究（H28-R2）
研究目的・背景	<p>岩手県内で35つがいのイヌワシが確認されてきたが、2000年以降、消失するつがいが増えている。その背景には長年に及ぶ繁殖成功率の低迷があると考えられる。今後もイヌワシの生息数を維持していくために、繁殖率の向上に資する保全方法を明らかにすることが求められる。</p> <p>これまでの研究により、県内の生息状況や生態的特性について解明が進められてきたが、個体の移動分散、遺伝的構造、営巣地不明つがいの存在など、生息数の動向を予測するうえで必要となる事項には、未解明な部分がまだ多い。</p> <p>また、繁殖成績や営巣場所の選択についても、地理・地形的条件や植生、気象要因、個体の年齢、隣接つがいの有無等を考慮して、詳細な分析を進める必要がある。</p> <p>本研究では、こうした課題に取り組むことを通じて、岩手県のイヌワシを維持、存続させるために必要な保全手法を明らかにし、提言を行なうことを目的とする。</p>	
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖状況モニタリング ・ビデオカメラを用いた繁殖行動解析 ・個体識別による移動分散調査 ・遺伝子サンプルの収集とDNA解析 ・地理情報等を用いた営巣地の分布や繁殖成績の解析 	
評価結果	<p>○総合評価 A（3人）・B（2人）・C（0人）・D（1人）</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県として研究すべき重要な課題である。得られた研究成果を有効に活用し、生息数の維持や増加に向けてさらに発展させて欲しい。 ・希少動物の保護として重要。移動例や遺伝的多様性の解析など、新たに明らかとなったデータも貴重と思われる。現状の把握を踏まえ、繁殖率指標達成に対する効率的な手段に展開することを期待する。 ・他機関では実施が困難な重要な課題であると認める。さらに多様な外部機関との連携を強化し成果が上がるような努力を継続して欲しい。 ・イヌワシの行動範囲等の結果は重要な情報で保全対策を検討する際に役立つことが期待される。今後も継続していただきたい。 ・岩手県の自然を象徴する猛禽イヌワシの保護に向けた具体的、定量的で有効な知見を蓄積し、施策にも反映させている。得られた知見をもとに、さらなる研究の深化が望まれる。 	

センターの対応方針	<p>I 研究成果は目標を十分達成した</p> <p>II 研究成果は目標をほぼ達成した</p> <p>III 研究成果は目標をかなり下回った</p> <p>IV 研究成果は目標を大幅に下回った</p> <p>V 研究成果がなかった</p> <p>本研究は、岩手県のみではなく国においても絶滅の危機にあるイヌワシの保護・繁殖を目的とした研究であり、常に新しい手法を試みながら研究を継続しており、イヌワシの生態について貴重な新しい知見を得られ、成果は十分に達成していると考えます。</p>
-----------	---

※ 記載欄は適宜調整（拡張）してください。